

サイバーパンクに学ぶ「経営の法則」 10選

全編 A.I. 生成 MV（ミュージックビデオ）が暴く不条理。
論理と衝動の同期で現実世界をオーバーライドせよ：

片頭歌 [<https://youtu.be/ujpDf7Th051A>]



私たちは、言葉にできないことよりも、ずっと多くのことを知っている。

——マイケル・ポランニー（哲学者）——

目次

はじめに - ナイトシティは現代の縮図そのものだ.....	6
1. 見上げれば、そこに「可能性」という名の光が溢れている.....	6
2. ナイトシティを理解する三つの視点.....	7
3. 論理と衝動の仲介役「境界線（エッジ）の翻訳者」.....	10
4. オリジナル世界『DESIR』への招待.....	11
序章 - DESIR の世界——「欲望の饗宴」が暴く非合理.....	14
1. 導入：A-I という名のサイバーウエア——孤独な創造主の誕生.....	14
2. DESIR（デジール）——A-I が捉えきれない不完全な欲望.....	16
3. 未完成な欲望の物語——論理（書籍）と衝動（映像）の同期.....	18
4. 思考をハックし、現実をオーバーライドせよ.....	20
第一章 - 市場の欲望を読み解くクイックハック（7 法則）.....	22
第1法則：マーフィーの法則.....	23
第2法則：衝動買いの心理.....	34
第3法則：ネットショップの心理.....	46
第4法則：コンプリート欲の心理.....	58

第5法則：ロストゲイン効果	70
第6法則：ステルス値上げ	81
第7法則：優良誤認の境界線	93
第二章・組織を蝕む不条理と非合理の法則（3法則）	104
第8法則：ブルシット・ジョブ	106
第9法則：トリックスター・リーダーシップ	117
第10法則：ワーク・ライフ・バランス	128
おわりに・現代のエッジランナーたちへ	142
1. 透明な監獄からの「脱獄」ではなく「無効化」	142
2. システムを無効化するマネジメントの「三角形」	144
3. センスメイキング——生き残るための「納得」の力	146
4. 欺瞞を「美しい誤解」へ昇華させる倫理	149
5. AIという「サイバーウェア」の取り扱い方	151
6. 最後に——未完成の本を携えて	153

はじめに - ナイトシティは現代の縮図そのものだ

1. 見上げれば、そこには「可能性」という名の光が溢れている

空を覆い尽くせんばかりに明滅するホログラムの広告、絶え間なく流れるデータの奔流、そして人々の欲望を飲み込みながら膨れ上がる巨大な摩天楼。この「ナイトシティ」という都市は、一見すると誰もが成功を掴み取れる、輝かしい黄金の海に見えるかもしれない。

最先端のA.I.が最適解を提示し、あらゆる無駄が削ぎ落とされ、洗練された合理性が都市の隅々まで行き渡っている。そこは、私たちが夢見た「効率的で、完璧な未来」そのものだ。

しかし、そのあまりにも眩しそうなる光の真下で、私たちは大切な何かを失いかけてはいないだろうか？

——ふ、ガ……、ジジッ……。

あなたは、CD Projekt RED により制作されたゲーム『サイバーパンク 2077』、あるいは Netflix で配信されたアニメ『サイバーパンク・エッジランナーズ』の世界、「ナイトシティ」を「存知ですか。」存知なくても大丈夫です。これからその世界の一端を解説していきます。」存じの方は頭の中へメモリをロード（サイバ

ー・パンク風には「リコール」する意味として御覧ください。

サイバー・パンクの世界は、テクノロジーが極限まで発展した未来都市でありながら、同時に人間の欲望と秩序のない世界が「法」よりも強い、荒涼とした世界です。誰もが「成功」を追い求めますが、その結果は、常にルールに縛られすぎて組織が壊れる（システムの破綻）か、ルールに従いすぎて人がロボットの様になる（人間の喪失）、という悲劇を伴います。

2. ナイトシティを理解する三つの視点

ナイトシティの世界観の理解こそが、本書で扱う「経営の法則」を知るための第一歩です。ここでは、次の3つの視点さえ知つておけば、サイバー・パンクの世界をイメージしやすくなり、本書の理解が進むよう、簡単にお伝えします。

視点1..企業は国家であり、そこに倫理は存在しない

ナイトシティを支配しているのは、国家や政府ではありません。「アラサカ」や「ミリテク」などをはじめとした巨大企業（メガコープ）によって完全に支配されています。企業の成長や利益は、国家の法律や人道よりも常に上位に置かれる絶対的なルールです。アニメの中でも、主人公のクラスメイトであるカツオの父親

（アラサカの上級役員）が、「社の利益は何よりも優先される」と語っているシーン（息子よりも会社を優先）が印象的です。国家や政府よりも一企業が支配しているつてすごい世界ですね。

物語では、アラサカが自社の利益のために仕掛ける「コーポレート・ウォー（企業間戦争）」や、データ操作、巧妙な消費者誘導などが常に描写されています。これは、現実世界の市場競争のなかにもある「優良誤認の境界線」といった倫理的課題が、極限まで進化（退化？）した姿を描き出しています。まさに究極の「利益至上主義」の世界です。ここでは、合理的な戦略を練る前に、「相手（市場や組織）の倫理の限界」を知らなければ、生存すらできません。会社の利益のためなら平気に躊躇なく人を殺めるような世界です。

見た目は完璧で平和そうに見える、何でもすぐに手に入る便利で快楽的な世界ですが、心が死んでいる暗黒の世「デストピア」がそこに描かれています。

視点2.. 身体改造が象徴する欲望の非合理性

ナイトシティの住人は、能力や地位への欲望を追求するあまり、自らの肉体をサイバー技術（サイバーウェアやクローム）で激しく改造します。私が子供の頃には、腕にサイコガンをついた「コブラ」というアニメが放映されていましたが、まさにそんな感じの肉体に機械を装着してフィジカルをアップする世界です。

しかし、「フィジカル」のアップには代償を伴い、強化しすぎると「メンタル」がやられてしまいます。彼らが人間性を失い「サイバーサイコシス（様々な精神疾患が複合したような症状を起こす精神病）」に陥る過程は、現実の我々が「衝動買い」や「コンプリート欲」といった欲望に突き動かされ、身の丈を超えた消費や

投資に手を出す心理と根を同じくします。理屈では分かっているけれど、どうしてもやつてしまふ、やめられない。この世界では、「人間の欲望」が、常に「論理的な合理性（損得による判断）」を打ち負かすのです。

視点③.. カオスではない「脳のバグ」が作り出すフイールド

ナイトシティは、ほぼ無法地帯ですが、真の危険は外部の無秩序ではありません。「脳のバグ」です。人間は、都合の良い情報だけを選び取り、悪い出来事だけを強調して覚えるという「認知の歪み」を持っています。これが、「すべてが悪い方向に進んでいるように感じる（マーフィーの法則）」という錯覚を生み出します。読者である皆さんのが最初に克服すべきは、外部の敵ではなく、自分自身の認知の歪みです。

誰もがこの認知の歪みを抱え、日々の生活やビジネスに苦しんでいます。かくいう私も長年、この不条理（理不尽で欺瞞に満ちた仕組み）な世界の中で「なぜだ？」という問いに自問し続けてきました。その結果、今ようやくたどり着いた、不条理の世界の中で生き残るためのアルゴリズムとも言える「論理の設計図」を見つけました。

と、その前に、簡単に私自身の自己紹介をさせてください。

3. 論理と衝動の仲介役 「境界線（エッジ）の翻訳者」

中小企業経営の現場とエンタメの融合

私は、特定の組織やアカデミアの枠にとらわれることなく、独立した中小企業診断士として活動しています。その現場経験を通じて、組織論と人間の欲望が生み出す「非合理性（理屈を超えた人間の根源的な欲望や衝動）」に気づきました。これは常に損得で動くことを前提とする「古典的な経済学」が、感情やバイアスで不合理に動く人間の「非合理性」を認める「行動経済学」へと進んだのと同じです。

著書に『ガンダムに学ぶ経営学』や『ドラクエができれば経営がわかる』があるように、私の思考のスタイルは、ゲームやアニメといったポップカルチャーをエンターテインメントとして楽しみつつ、その描かれている本質や作者が埋め込んだであろう思いから、世の中の普遍的な法則を見出すことです。それを勝手ながら世に紹介しつつ、メガコーポ（大手企業）の枠組みから外れてしまっている中小企業、まさにエッジ（崖っぷち）に立っている人々の生き残りのためのヒントを、不条理の中で生き抜いていくための考え方の指針を提供すること、それを使命だと思って活動しています。

生成AIというサイバーウェアをハックする

近年、生成AIの急激な台頭は、中小企業も含めた私たちの「知的労働のあり方」を根本から変えようとしています。ホワイトカラーの領域において生成AIは、すでに「脳の身体拡張」として機能し、私たちの生産性を飛躍的に向上させるサイバーウェアのような存在になりつつあります。

私もまた、生成A-Iとの対話を通じて、この世界の「不条理（理不尽で欺瞞に満ちた仕組み）」と「非合理（理屈を超えた人間の根源的な欲望や衝動）」について深く議論を重ねてきました。大きな組織の現場で目の数値に置き換えられていく不条理。その結果として生み出される空虚な仕事（ブルシット・ジョブ）。

一方で、市場を動かす原動力であるマーケティングの「美しい誤解」の正体、すなわち人間の剥き出しの「非合理（欲望）」。A-Iと対話をすればするほど、ナイトシティの様なディストピア（不条理なシステムが「合理性」という名の下に人間を飲み込み、征服しようとする世界）は、すぐ目の前まで迫っていると感じずにはいられません。

本書は、私自身が経営支援の現場で直面した不条理な壁を、読者の皆様と共に乗り越えるための、「経営と人生の法則」を示すものです。つまり、「不条理なシステム（理不尽で欺瞞に満ちた仕組み）」を、非合理な欲望（理屈を超えた人間の根源的な欲望や衝動）でハック（克服）する」ことを示しています。

4. オリジナル世界『DESIR』への招待

本書は、特定のIP（知的財産）の著作権リスクを避け、著者が現場の経験とA-Iとの対話から見出した普遍的な法則を語るために、オリジナル世界『DESIR - 欲望の饗宴』という「論理の設計図（オリジナルの世界）」を用います。DESIRとは、我々が置かれているこの不条理なサイバー・パンク的世界の、「本質的な問い」を解き明かすための、独自の哲学です。

そして、この DESIR の世界において、「不条理なシステム（理不尽で欺瞞に満ちた仕組み）に抗い、自らの意志と技術（サイバーウェア）を武器に、がけつぱちの境界線（エッジ）を走り抜ける者たち」。そう、あなたを含めたその人たちを、私は敬意を込めて「エッジランナー」と呼びたいと思います。

境界線を走り続ける、すべての『エッジランナー』たちへ

本書は、あなたが生きている現代の「ナイトシティ」において、既存の枠組みを解体し、自らの欲望で「上書き（オーバーライド）」するための「論理の設計図」です。

ここで提示する「経営の法則10選」は、単なる知識の羅列ではありません。それは「衝動買い」や「スルス値上げ」といった、一見すると不合理な現象の裏に潜む、人間の剥き出しの「非合理（欲望）」を掴み取り、自らの脳（サイバーデッキ）にインストールするための確かなる武器（クイックハック）です。

私は、この設計図を具現化するために、AIという名のサイバーウェアを幾重にも換装し、YouTube チャンネル『DESIR - 欲望の饗宴 -』を作つてみました。企画・作詞から、作曲、歌唱、そして映像生成に至るまで、多種多様な最新AIを連結させ、それら「合理性の塊」を私の「非合理な欲望（desir）」で上書きし、塗りつぶした零がそこにあります。

レッドを使用した具体的な技術スタック（Gemini & Suno' Imagen' Veo' Grokなど）の詳細は、X（旧Twitter）等で公開しています。技術的なハックに興味がある方は、いつでも声をかけてください。

さて、次章からが本番です。読者それぞれが、この設計図をサイバーデッキにロードし、エッジを生き抜くための準備を始めてください。